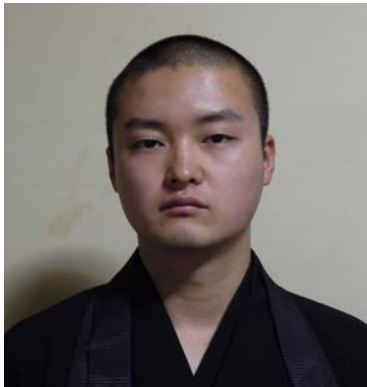


全久院報

松本市深志3-7-50 電話 0263-36-3211

全久院の新体制スタート

檀信徒の皆さまには日頃全久院護持のためにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。さて、本年1月22日をもって長男俊浩が5年10ヶ月の大本山総持寺での修行を終え、帰ってまいりました。最後の役目は「副悦」という修行僧を取りまとめる、修行僧では最上位の役でした。最後の役まで勤め上げる



ことができるとは思っていませんでしたので、本人の努力もさることながら、本山の諸老師様や仲間や後輩に恵まれ、ここまで育てていただいたこと、彼にとっては本当に恵まれた本山修行ではなかったかと思えます。もちろん厳しい修行ですので何度も修行を止めて帰ろうと思ったこともあったでしょうが、さまざまな困難を乗り越えての本人の頑張りであったかと思えます。今後は檀家の皆様と直接触れ合う中でさまざまな経験をするかと思えます。それを一つずつ自分の成長に結び付けて言って欲しいと思えます。檀家の皆様にはこれからしばらく二人で法事のお参りをさせていただくことを基本に、檀務に慣れてもらおう

と考えています。皆様のご都合で一人でのお参りを希望される方は、法事などの申し込みをされる時その旨をお伝えください。彼岸やお盆のお参りは引き続き二人で手分けして回ります。特に彼岸は二人で回りますので、彼岸の入りから3日間で回り切ることができると思います。3日間が過ぎてもお参りに来ない時は電話などでの問い合わせをお願いいたします。

次に、ここ数年茶室、開山堂、稲荷堂、本堂と瓦の葺き替え工事を進めてきました。現在は茶庭に面した庫裡の屋根下の壁が、一昨年6月の地震で傷んでいたのが崩れてしまい、それを修理しました。右の写真は茶庭から庫裡側を見上げて撮った写真で、修理の際屋根裏へ入りやすくするため漆喰の壁にドアを着けたものです。この改修は宗教法人の予算で行いました。一連の改修工事は漆喰の壁が落ち、瓦が老朽化した蔵を残すのみとなりました。私が住職となってから10年、ずーっと改修工事が続きましたが、これで一区切りになるかと思えます。



大屋根瓦の葺き替え工事に際して、寄付をお願いした分の会計も本年の護持会の新年会にて承認をいただき、記念の住職書による「南無釈迦牟尼佛」の掛け軸もお配りしております。まだお手元に届いていない方へも今年中にはお届けしますのでもうしばらくお待ちください。つきましては、まだご寄付いただいていない檀信徒の皆さまに再度寄付のお願いをいたします。

・一口 25000円で、1軒につき三口を目途にお願いします。

申込みは 先にお配りした申込み用紙を郵送かファックスで全久院へお送りください。
 送り先住所 〒390-0815 松本市深志3-7-50
 ファックス 0263-34-4300 (電話 0263-36-3211)

・ 寄付の払込みについて

払込み期間	随時（檀家様のご希望をご相談ください）		
払込み方法	1、全額	一括払い	
	2、分割	複数の払込み回数可能（檀家様のご希望、ご相談ください）	
	3、払込み	現金書留	か 全久院へ持参
		払込み用紙	ゆうちょ銀行 払込み口座（払込み用紙がお手元にないない方はご連絡ください。郵送いたします。）

お盆参りのお知らせ

お盆のお参りの予定を次の表にしましたのでご覧いただき、ご準備をお願いします。本年からは本山修行を終えた俊浩が松本市の北半分を回り、私が南半分を回りますので、今までの担当が逆になります。ただし、一挙に半分を変えることができませんので、数年かけて檀家様の家を覚えてもらいながら、すべての檀家様の家を覚えてもらおうと思っています。

毎日80軒前後の軒数を回ります。朝7時半から夕方7時ころまで回ります。案内の封筒に記入した期日と時間にお参りに行かない場合は電話などでお問い合わせください。今年の予定は下記の表のとおりです。従来の周り順と多少変更がありますので、ご一覧ください。

8月	俊浩の回る範囲	住職の回る範囲
9日	新盆のお宅半分	新盆のお宅半分
10日	安曇、明科、麻績など超遠方に同行	安曇、明科、麻績など超遠方
11日	並柳、寿、塩尻、村井、平田、など市外南部	笹部、征矢野、南原、石芝、二子、神林、笹賀
12日	筑摩、神田、惣社、山辺、清水、横田、など市外北部	石芝、高宮、南松本、荒井、新村、波田、岡田、桐、沢村、蟻ヶ崎、城山など
13日	源地、日ノ出町、県、西小松、清水、四谷、女鳥羽、下横田など市内北東部	宮村、埋橋、庄内、東中条、豊田町、南新町、井川城、など市内南部
14日	裏町、片端、下横田、女鳥羽、旭町、元町、横田、美須々、浅間、北深志、沢村、田町、など市内北西部	鎌田、本庄、博労町、天神、宮村、中町、小池町、飯田町、本町、新橋、島内、蛇原、
15日	上土、六九、西堀、城西、宮淵、城山、留守だったお宅、	白板、渚、巾上、伊勢町、国分町、留守だったお宅
16日	留守だったお宅	留守だったお宅

お盆前の作業と懇親会に

本年も、お盆が始まるにあたり、本堂の掃除機かけ、山門の掃除、お墓の掃除や、窓拭きをしていただき、その後懇親会を催したいと思います。常日頃の掃除は家族と、りらの会が掃除をしています。畳と板の間の掃除は手を抜くと建物自体が痛んでいきますので、先輩のお坊さんたちが伝えた方法で掃除を進めます。やはり雑巾がけが一番肝心と思います。後は部屋の隅がきれいになっていないとすぐに汚れが広がります。たかが掃除ですが、先輩から伝えられている方法を次世代にも伝え、築100年を過ぎた古い伽藍を磨いて、ぴかぴかの板の間を維持してゆきたいと思っています。



ぴかぴかの本堂へ皆様をお迎えするためにも是非皆様お集まりください。毎回参加していただく常連さんもできました。写真は、お墓のごみを回収し終えた時の様子です。これから山門の掃除に向かいました。女性陣は茶庭や庫裡南側の窓ふきをお願いしました。今年は本堂の掃除機かけもお願いしたいと思います。

7月20日（土）14時全久院の庭に集合、掃除（お墓の清掃・本堂の掃除機かけ・窓拭き・山門二階の拭き掃除など）

17時より夕食を兼ねた懇親会

作業のできる服装でお越しください。汗をかきながらの作業や懇親ですので、堅苦しくないお寺の一面もわかっていただけるかと思えます。参加希望の方は食事の都合がありますので、電話にてお申し込みください。

盆棚の飾り方

お仏壇はご先祖様をまつるばかりでなく、仏様の世界、須弥山（しゅみせん）を表しています。仏教の始まったインドの人々にとっては孤高で白雪を頂くヒマラヤ山脈の峰々は、神聖な場所として信仰の対象となっていました。お釈迦様が説かれた仏さまの住まう須弥山はきっとこのヒマラヤの山々をイメージしたものだったのでしょう。私たちの祖先がお盆の間住まう場所を須弥山に見立てて作られたのが、盆棚です。その飾り方はそれぞれの家によってみな違いますので、ご先祖様が代々伝えてきた飾り方を大切にしてください。また下記に一般的な飾り方を示しますので、飾り方の不明な部分はどうぞ参考にしてください。



1、棚を作る場合

上の段に本尊様、（本尊様は仏壇の中に入れ、盆中は扉を閉じておくというお宅もあります。その家のやり方を尊重してください。）お位牌、塔婆を奉る。お位牌は古い順に向かって右へ、新しいものは左へおまつりします。2段目には供物をお供えします。お供物には二種類あります。水（お茶）、食（お膳、果物、菓子、嗜好品）などです。3段目に過去帳、花、燭台、線香立て、鐘、マッチや火消しや線香入れなどの道具をおきます。棚の数が多いお宅は上の写真のように各棚に分けてお供えください。

2、仏壇を使う場合

仏壇は常のとおり奉る。手前に経机や机を出すお宅は机の上に、経机を出さず引き棚を使うお宅はその上に棚の3段目に飾る過去帳や花や鐘などを飾る。その他灯籠や飾り花、いただいた供物などは写真のとおり適所に飾る。

3、またお寺が配る五色の盆旗は、写真のように広げて糸などを通して



吊るか、棚に広げておいてください。

初めにも書きましたが、こうでなくてはいけない、ということはありません。先祖様をお迎えするという気持ちをこめて、その家に伝わった仕方で飾っていただくのが大切なことと思います。

境内散歩 — 永代供養塔 —

最近東京などの都会の風

習がそのまま地方に入ってくるケースが増えています。ご先祖様の守り方や葬儀の出し方もそうです。しかしこれは決していいこととは思えません。都会は親戚や地域や友人などの繋がりが希薄になり、人や家庭が孤立化してきているといわれます。また少子化で家の跡継ぎが無い家庭も増えて来ています。だから、葬儀は自分の思いを実現するだけのものであったり、または葬儀もしないという様式が増えています。しかし、これらは望んで出来上がった様式でしょうか？違います。社会的な絆が薄れ、今までの様式の葬儀ができなくなってしまった結果に過ぎません。行き場の無くなった無力感を誤魔化し、憤りを無理やり様式化しただけのものです。まだまだ社会的な関係を強く持つ地方



では都会の真似をしても意味がありません。かえって、家族だけで葬儀をしてしまい、後から亡くなったのを聞いた方々が、葬儀の後自宅へ次々とお参りに訪れ、その対応に追われ疲れ果てた、という後日談を聞きます。都会と地方の差を見極める目を養っておかなくてはなりません。

しかし、少子化の問題は松本でも見過ごすことの出来ない問題となっています。ご先祖様から伝えられた仏壇やお墓、家を継承できない状況に追い込まれた方から、「家を守ってくれる人が無く、このままではお墓や仏壇にお参りもできず、荒れ放題にしてしまいそうです」などの相談を受けることもあります。そんな時は「永代供養」という言葉を思い出してください。お寺が皆様の変わりにご先祖様をお守りします。上の写真は山門前の参道の北側に作られている「永代供養塔」です。左隣には慈母観音像が安置されています。「ご先祖様を守れず申し訳ない」という慙愧の気持ちをやさしく受け止めてくださいます。

精一杯自分の生き方をして、家族を守り、ご先祖様を守り、次世代を育むことが私たちの役目でしょう。それを全うできる方は最高に幸せな生き方ができた方といえましょう。しかし、誰もがそうできるとは限りません。何らかの条件でそうできなかった時、どうぞお寺に相談してみてください、きっと良い方法が見つかりますよ。

仏教ミニ知識

・ ・ ・ 続、達磨さま ・ ・ ・

前号にて達磨様は中国での布教を終え、150才の天寿を全うされ、10月5日に亡くなられたと申しました。大切に葬られたとはいえ、熊耳山(ゆうじさん)の墓に片方の草履を残し、もう片方を片手に悠々と天竺に向かって帰途に着いたといわれる達磨様は、後継者を残しました。それが現在の禅宗の元となりました。

達磨様の弟子、慧可大師については以前書きましたが、出家前の名を神光といい、あらゆる学問に通じていました。学問を究めても自ら納得がゆかず、迷い苦しむ種になるばかりでした。達磨さまの噂を聞き40才の時、12月8日雪の降りしきる少林寺にたどり着き、礼を尽くして来訪の趣旨を告げ教えを請いましたが、達磨さまは一言をも発せず、振り向きもしません。そこで自分の臂を切り落とし差し出すと、やっと許可を得、弟子となりました。そして「安心（あんじん）の法門」をきっかけに神光は大悟し、達磨さんより「慧可」の名をいただき、中国で禅宗が広がる第一歩となったのです。その後の後継者についても詳細が伝わらず、神秘的なベールに包まれています。

禅宗の第3代は僧璨（そうさん）と言われていました。僧璨についても詳細は伝わっていません。相当の変わり者であったらしく、どこも無く慧可の元に現れて門弟になり、一人前になると山中に籠ってしまった。20年ほどして幼少の道信という小僧を連れ寺に戻り、彼を育て上げ第4祖とした。大勢の前で説法をしながら大きな木に寄りかかり、手を合わせ眼を閉じると絶命していたと言われます。

このように徹底的に修行を収めた跡継ぎたちにより、達磨様の禅の教えは中国全土に広まったのです。七転び八起きの達磨さまにはこのような徹底した仏法を収め、広める生き方がありました。まさに「七転び八起き」の150年の障害を全うしたのです。

全久院の集い

ご詠歌・・・梅花全国大会 in 仙台市・・・

今回の大会は宮城県仙台市総合運動公園グランディ・21で開催されま

した。東日本大震災の復興支援に協力いただいたお礼と、復興の現場を見てもらいたいのと、益々支援の輪を広げる意味での開催となりました。5月29日・30日の両日の開催で、長野県第二宗務所は30日のご詠歌発表でした。それぞれの日に5000人、2日合計10000人が仙台市に集結しました。私たちは29日松本を出発し、福島県境いの、宮城県山元町の徳本寺を訪れました。徳本寺さんには末寺「徳泉寺」がありますが、大震災に伴う津波で全壊してしまい、檀家さんの家もほとんど流されてしまいました。住職は早坂文明師で、SVAの理事として私と親しくお付き合いいただいています。徳本寺には多くの遺骨と仏様が開山堂に安置されています。遺骨はお墓が流されてしまったり、身元がわからず一時預かっているもの



のです。仏様は徳泉寺の本尊様で、後形なく流されてしまった伽藍の近くから偶然本尊様だけ見つかったものです。本尊様の発見を機に打ちひしがれた心を奮い起こし、伽藍の復興に乗り出したのです。「はがき一文字写経」運動により、はがきに一文字書いて「徳本寺 〒989-2111 宮城県亘理郡山元町坂元字寺前13 TEL0223-38-0320へ送るとその後の手続きが始まります。是非ご協力くださいますよう、私からもお

願いたします。ちなみに第一号の協力者は「永六輔」さんです。前頁の写真は徳本寺の開山堂でお参りのものです。右端に写っている棚には遺骨がぎっしり納められています。

翌日はご詠歌の大会でした。今回の大会は今までに無い雰囲気での大会でした。宮城の皆さんが、はるばる来てくださった日本中のご詠歌の仲間から心からの感謝の気持ちを送ってくれたからでしょうか。初めから終わりまで、いつも声をかけ、ご詠歌の発表には心からの拍手を送ってくださいました。東北の方々の強さが身にしみました。東北の被災した者に負けるな！という励ましをいただきました。

座禅会 . . . 青山俊董師講義 . . .

4月6日（土）毎年恒例の座禅会主催「青山俊董師」講義をお聞きしました。当初その次の週の予定でしたが、急なお勤めが入り、前の週に繰り上げ、その日に愛知の尼僧堂から駆けつけ、その日のうちに帰られるというハードスケジュールをこなしていただく形となりました。

講義は「趙州洗鉢」という従容録の39則の講義をしていただきました。唐の有名な僧、趙州（じょうしゅう）の弟子が「私はこちらの寺に修行に入らせていただきます、修行にとって大切なことを教えてください」と問うと、師は「朝のお粥は食べましたか？」、さらに弟子はその答えに満足せず「食べ終わりました、次を指示してください」、師は「食器を洗いなさい」と答えたが、弟子は何が何やら、チンプンカンプン。

この例文をとおして青山師はいくつかの教えを説いてくださいました。まず、毎日の一つ一つの生活動作の中に悟りがあり、まったく別なところに光り輝くような「悟り」という別ものがあるのではない。当たり前前のことが当たり前前にできるすばらしさと難しさに気付かせてもらえる問答だと説かれました。次に、弟子の受け皿の分しか、師匠の境地が伝わらないから、自分の器を大きくすべく毎日の修行が大切だ。一分一秒怠けていられない、師匠の教えを受けられる器に自分を高めなくてはならない。そして修業には卒業がある。業（わざ）を磨くことは業を習得して卒業となります。修行は学びを深めてゆく行為や生き方を続けることだから、卒行は無い。息や食事は死ぬまで続けなくては意味が無いもので、足りない自分に気付き続ける道だと説かれました。この紙面では説きつくせないもっと多くの教えが、この数行の問答の中にあることを教えていただきました。

最後に、これらの教えを身につけてもいないのに、知ったかぶりして説こうものなら、知っていると言う鼻持ちなら無い「くさみ」が残る。その「くさみ」まで拭き去る徹底した毎日の生活の繰り返しが必要だという、生活がそのまま修行である大切さを説かれました。生半可な生き方ではありません。毎日の生活をこんな意識で生活できたらと思います。現在の私たちに欠けている一番大切な生き方ですよ。



花祭り - 松本仏教和合会 -

今年も松本仏教和合会による「お花祭り」が無事円成しました。私にとっても現在、松本仏教和合会の総務部長として自分の時間の多くを割いている役目なのでどうしても成功させなくてはならない行事です。

和合会はお花祭りなどの事業の資金を集めるため、4月1日より平日の午前中托鉢を行っています。最近、高齢者の一人暮らし、夫婦共働き、郊外への引越しなどで托鉢を受けてくださる家が減ってきており、托鉢のコースを変更しなくてはならなくなりました。以前と同じ一日分の軒数の托鉢を維持するためにはコースの範囲を広くして、その中で軒数を増やさなくてはなりません。そのコースの再編成を私が担当しました。全久院は代々托鉢に積極的で、ほとんど全てのコースに檀家さんが相当数割り振られているため、毎日托鉢に参加していました。コースを熟知していますので担当した訳です。



4つのコースを編成し直して3コースにしてゆくという微妙な作業を繰り返しました。また、



1日に2コース回る日もあるので、両コースが同じくらいの件数で、同時に終わるように配慮しなくてはなりません。ここ4年ほどかけ23日間33コースを17日間26コースへと編成し直しました。松本市の住宅地図を片手に、一軒々コース移動させてゆく作業でしたが、いざ作業を終えて見直してみると、まったく機能しないコースなっていたり、水曜日定休日を計算せず商店街を割り振ったりと、さまざまな失敗談がありました。托鉢をお受けいただいた

檀家の皆様やご寺院さまの協力で何とか托鉢を成就することができました。苦勞した分花祭りの円成は例年以上の感慨がありました。ご協力心から感謝申し上げます。

茶道コーナー

・・・表千家同門会全国大会・・・

全久院は先代俊勝の代から表千家の茶道教室を始め、長野県支部事務長を勤めてきました。現在私がその役を継いでいます。先代の時もお家元を招き、善光寺・諏訪大社・松本深志神社などで献茶式や全国大会を行いました。全久院にも現在の家元14代宗左宗匠をお招きしたこともあります。

そして、来年長野県支部で全国大会を受けることになりました。平成26年5月29日(木)30日(金)の日取りは確定しました。詳細はまだ発表できる段階ではないのですが、松本市で3ヶ所と式典、諏訪市で2ヶ所の会場を用意し、濃茶・薄茶・野点の席を用意します。その他、点心席を用意し、約1000人のお客様をお迎えする予定です。

長野県は昭和以前に茶道文化と言えるものが少なく、戦後になってやっと稽古ができる状態になりました。ですから、茶道として使える建物や茶道具がほとんどありません。少ない茶道文化や歴史でお客様をお迎えできない分、その代わり豊かな自然がありますので、父の代から揃えた茶道具を駆使して、どんな自然に溶け込んだ茶席が作れるか頭をひねっています。おいしい水、自然の香りに満ちた清浄な空気、澄み切った空、新緑の上に白雪をいただくアルプスの峰々を十分に味わっていただけるお迎えをしたいと思えます。

お客様は40人ずつチャーターバスに乗り、茶席を巡り、40人ごとの茶席に入り、お茶を味

わっていただきます。来年5月下旬着物を着た方々が、松本市と諏訪市を巡ります。その手配を現在進めています。京都家元付きの宗匠方の指導をいただきながら、何処へ、どんな茶席を作り、信州の大自然を十分楽しんでいただけるか企画してゆきます。来年の5月まではこの仕事に多くの時間を割くこととなります。時間の制約を多く受ける分、茶の勉強を進め、様々なことを自分の身に付けたいと思います。皆様には私が時間的に制約される分ご迷惑をおかけするかもしれませんがご容赦ください。

葬儀や法事に全久院をご利用ください！

永代供養のコーナーでも書きましたが、最近葬儀の形態が急変しています。数年前は身内・親戚・隣組・会社や交友関係の人が葬儀を手伝い、またお参りに来るというように、皆で個人を送る葬儀でした。しかし、最近は家族や、ごく身近な親戚のみのご葬儀が多くなっています。都会の風潮の変化がマスコミで取り上げられる為でしょうか、地方に伝統的に守られて来た葬儀や法事の形態が徐々に変わり始めています。

以前のようにいたずらに多くの人に呼び掛け、動員をかけるような人呼びは必要ないかと思えます。が、家族以外に知らせなかったため、後から知った方々が、葬儀後ひっきりなしにお参りに訪れるという、予想外の状況が生まれています。「お参りに来る方々の接待で休まることがなく疲れ果ててしまった」などとこぼされた方もいます。伝統的な儀式の良さを守り、取り入れながら、自分や家族が絆を深め、悲しみに傷ついた心を癒し、亡き人の分まで代わりに生きようという新たな力に切り替えられる儀式を行いたく思います。

ですから、どんな形で葬儀や法事をするか、行き当たりばったりでなく、健康なうちからしっかり考えておく必要がありますね。法事の時お唱えいただいている「修証義」に「光陰は矢よりも迅やかなり、身命は露よりも脆し、徒らに百歳生けらんは恨むべき日月なり。悲しむべき形骸なり」とありますが、現在ほど自分がどう生き、どう死を迎えるか、はっきりと自分の考えを家族と一緒に確認しあっておくことが求められています。

何度もこの紙面にて報告していますが、業者のホールを使った葬儀や法事は、最新の設備を備え便利で快適ですが、その分費用はビックリするほど高額になります。葬儀費用を比較してみますと100人のお参りの人が来る葬儀を仮定すると、ご遺体の自宅への搬送から始まる全ての費用は、業者では、100人×25000円＝250万円くらい。寺を使えば100人×10000円＝100万円くらいになります。差し引き150万円程の差が出ます。

「寺を使うと人手がかかり大変ではないのですか？」と聞かれるのですが、まったくご心配は要りません。ヒラバヤシ式典部（電話32-8700）かメモリアルライフ信州（電話40-7745）へ電話するだけです。行政などへの手続きや、花や供物の発注、葬儀の内容や「あとふき」など、みな業者がやってくれ、皆さんに負担は掛かりません、

業者に「積立金があります」と言われますが、それが30万円としても、120万円浮いてきますし、その積立金を法事などの別の用途に使うこともできます。

葬儀や法事は宗教的な儀式ですから、寺という場所でなければ、その儀式を行う意味が薄れてしまいます。戒律を授かり、菩提寺の住職に戒名を付けていただき、心一つになった方々に送られて仏様になる、という葬儀の意味はやはり自宅や寺という場所でなければなりません。様々な事情で仕方のない場合もありますが、是非経済的にもお寺を使っていたいただきたいと思えます。イスに坐っていただけるよう、駐車場の確保、など以前よりは便利になってきていますし、是非ご

一考ください。いざという時に慌てぬよう、自分の葬儀の仕方を住職と相談しておくことをお勧めします。葬儀の後、請求書を見て子孫をビックリさせるようなことだけはしないでいただきたいと思います。

住職の活動

フィリピン戦跡参拝

松本仏教和合会は数年に一度戦跡を訪ね、慰霊法要を行ってきました。本年度はフィリピン、ルソン島を訪ねての法要となりました。右の写真は「神風特攻隊マバラカット飛行場慰霊碑」での法要です。

私の父、先代は昭和 18 年学徒で兵隊に招集され、習志野などで訓練を受け、予備士官学校を出て、松本 50 連隊に配属、連隊旗手補佐になったと聞きます。下の写真は中村連隊長と連隊旗手、後列の右に写る父です。少尉となり小隊を任せられた時、一人の脱落者も出さないように、疲労



で動けなくなった部下の三八銃を何丁も担い、ほふく前進をしたと聞いたことがあります。しかし、それ以外は何も話しませんでした。親戚のおじさんたちが兵隊時代の辛かった話を酔いに任せて話しても、その輪の中には入りませんでした。一度だけ心を割って話せる陶芸家の篠田義一さんと酔いながら話した「俺が育てた兵隊をみんな殺してしまった、俺だけおめおめと生き残ってしまった」という言葉がまだ耳に残っています。

本当は兵隊のところに行きたかったろうと思います。

他の兵隊経験のあるお寺様が戦跡巡拝をするのにどれだけ同行したかったか推察されます。でも申し訳なくて、おめおめ生き残った俺のどの面下げてお参りに行けるのか、ものすごい煩悶を繰り返したことと思います。その父の変わりにやっと慰霊参拝に行けたこと、本当に感無量でした。

多くの戦跡を参拝しましたが、どの戦跡も敗走を続けた兵士のことを思うと体中から汗が噴出す思いでした。日本軍が追い詰められ、最後の砦として死守した戦跡の一つバレット峠には日本・台湾・アメリカそれぞれの慰霊碑が祭られていました。ジャングルに隠れながら峠に集結し陣地を築いた日本軍に、左の写真の中



中央の灰色の道をアメリカ軍の戦車隊が攻め上がってきました。弾薬や食料や薬の尽きた日本軍。言葉も出ません。日本軍 50 万人の 8 割は食糧不足で体力の衰えた餓死と病死だったとガイドさんの説明でした。山肌があらわになったままでまだ木々が生えそろうないままのジャングルの中、兵隊さんたちがどんな思いで亡くなって行ったかを思い、皆さんの死は無駄ではなか

った、と言い切れる生き方をしなくてはならないと強く思いました。「私たちは皆さんの思いを継いで、日本はこんなによばらしい国になりました」と言い切れる行き方をしなくてはならないのに……。

また第二次大戦中になくなったフィリピンの方は280万人だったそうです。にもかかわらず日本にはもう賠償請求はしない。戦跡の記念碑はしっかり守ります、と意思表示をしたフィリピンの方々の強さ、暖かさに報いる行き方をしなければ

ならないのに……。最後に、フィリピン各地の戦跡慰霊碑をまとめて、日本人がお参りできるように1973年に作られた、「カラリア戦没者慰霊碑」でお勤めをしました。「日本平和庭園」と別名がついており、日本庭園としてフィリピンの方々の憩いの場所にもなっていました。そこには垣根を刈り込むなど男性が清掃をしてくださっていました。今回の戦跡を案内する専門のガイドさんが「最近はお参りする日本人の数が減って、慰霊の地が荒れてきています」と。第二次大戦に何が行われたか、その後どうなって、私たちは何をしなくてはならないか。しっかり勉強しなくてはなりません。



大黒コーナー … オペラ ラ・ボエーム …

5月12日、まつもと市民芸術館にて、プッチーニ作 オペラ ラ・ボエームが上演されました。ラ・ボエームはフランスの下町で共同生活をする音楽家・詩人・哲学者・画家の友情を描きながら、主人公ミミと詩人口ドルフォ、ムゼッタと画家マルチェッロの愛を描く物語です。その中に下町の人々の生き生きとした生活や人間模様がプッチーニの曲にの



って表現されてゆきます。その中で主人公の愛を巡る嫉妬、破局、本当の愛の訪れ、愛の中での病死が有名なアリアや重唱や合唱によってキラキラとステージ上を飾ってゆきます。音楽家にとっては憧れであり、最高峰の音楽表現の場となるのがボエームです。

最高峰をどう自分のものとして表現するかは音楽家の役目です。楽譜をじっくり読み、何を表現したかを考え、その時の動き、息遣い、声をどうするか、何を伝えれば聴衆がドラマを理解してく

れるかを考えます。たとえばミミが暗がり部屋で部屋の鍵を探す、大好きな口ドルフォに後ろから手を触れられる、その時の「アッ」の声は初々しく、びっくり、恥ずかしい、でも少し嬉しいという表現ですが、何度か「アッ」を声を出す中、練習場が爆笑の渦、など逸話に事欠きません。

そんな中、総監督・指揮・音楽指導の澤木和彦は月4回東京から通い、合唱やソリストの指導をし、夕方7時50分の「あずさ」に飛び乗るハードスケジュール。諏訪市在住のマクナリーみどりや「りらの会」の茅野さんの衣装、大工の松沢さん、ストリートオルガンを貸してくださっ



た「レストラン・ルブラン」など、全員が自分のそれぞれの時間の中で、いろいろな事情を抱えながら、でも楽しく練習に取り組んでくださいました。その情熱が750人の観客を魅了したのだと思います。澤木先生の「前回の“蝶々夫人”」に比べ、規模、活気など更に大きく飛躍してきた様子を目にして、“オペラを楽しむ会”が松本の地に定着したと確信し、非常な喜びです」と賞賛の言葉をいただきました。

長野県民による手作りにこだわり、3才から80代の合唱団、合唱のお手伝いをいただいた

県が丘高校「あひるの会」の皆様、演劇のお手伝いをいただいた皆様、本当に多くの皆様のおかげで今回の公演を行うことができました。多くの方々との繋がりが深まり、これほどのステージができた。心から感謝いたします。益々地域の皆様と連携を深め、皆様の持つさまざまな力を結集し、更に1歩あゆみを進ませ、よりよいステージを作り上げたいと考えています。地域の皆さんの力で作り出すオペラ文化が、益々深く根付くよう頑張りますので、是非皆様のご協力をお願いいたします。また共催として公演に多大なご協力をいただいた松本芸術文化協会などからも高い評価をいただけるようになりました。松本市やあずみの市などの行政やマスコミ、また文化財団などからのご協力をいただけるよう、もっと地域に働きかけながら、次の公演を模索しています。なにより絶大な協力をいただいている全久院の檀家の皆様のお力を借りながらさらに進化した公演を目指します。今後もよろしくお願いいたします。



掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

～施食会～

8月5日(日) 12時より自家製によるお弁当、12時半より観音講や合唱部の皆さんと一緒に懐かしい唱歌の合唱、13時よりお話、14時より法要(ご詠歌の会の皆様による奉詠)、15時よりお塔婆を配ります。今年は蔵の改修をするに当たり、蔵の整理をしたところ、皆さんに使っていただけそうな品々が出てきました。そこで、東日本震災復興支援のためのバザーを行いたいと思います。タオル・シーツ・ふとん・食器・石鹸などたくさんの品があります。お金とひもや風呂敷や紙袋などの持ち帰るのに便利なものを持ち寄ってお越してください。一年ではさばき切れなければ来年も行いたいと思います。かなりよい品がありますので是非ご協力ください。そのほか皆さんにお参りいただけるような内容を考えています。ぜひご参加ください。



．．． 檀信徒作業と懇親会 ．．．

例年通り 7月20日(土) 14時より全久院で開催します。2時より本堂とお墓の清掃、窓拭き、山門の掃除をしていただきます。5時より懇親会となります。屋外でのバーベキューと冷たい生ビールという趣向です。参加希望の方は 34-4300 へファックスください。

．．． 座禅会 ．．．

9月21日(土)・10月19日(土)・11月16日(土)・12月14日(土) お粥と精進料理。

以上が下半期の日程です。毎回夕方4時集合4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。12月14日はお粥と精進料理を経験していただきます。座禅を経験していただくだけでなく、もの見方や生き方を豊かにすることができると思います。ぜひご参加ください。

．．． ご詠歌会 ．．．

9月12日(木)・10月10日(木)・11月14日(木)・12月12日(木)

午前10時より11時半まで、白板 東昌寺副住職 飯島恵道師にご指導いただきます。一緒にいかがですか。また、ご詠歌を始めたいという方に大黒が初心者コースを始める計画をしています。ご希望の方はぜひご連絡ください。上記とは違う日程をくみたいと思います。

．．． 観音講 ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時20分からご詠歌、10時50分から大黒の指導で唱歌の合唱11時20分より食事という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気よりも良く60代から90代の方が元気に集まってきました。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． 歌の会 ．．．

9月4日(水)・9月18日(水)・10月2日(水)・10月16日(水)・11月6日(水)・11月20日(水)・12月4日(水)・12月18日(水)

午前10時より12時まで、お茶休憩をはさみ大黒が指導します。発声練習をして、唱歌、童謡、懐かしい曲など一緒にいかがですか。また、ハーモニーを付ける曲もあります。他の催しへの参加なども企画しています。音楽を通した楽しい友達もできますよ。お待ちしております。

お知らせ

．．． ホームページを開設しました ．．．

<http://zenkyuin.or.jp/>

全久院の催しに参加する若い方から、「全久院報を配っているようだけど、すぐ仏壇に上げられてしまうようで見たことがない。若い人にはコンピュータのほうが身近だからホームページにしてくれないか」との要望がありました。全久院報も全久院を知っていただけるようさまざまなコーナーを作ったので、それをそのままホームページようにすることが出来るとのことで、コンピュータ管理をしてくれている檀家の丸山耕一さんに依頼して解説していただきました。将来は皆様と意見や情報を交換できる場に育てて生きたいと思います。ぜひ一度開いて見てください。